

東北海区沿岸水温予報(2008年)

海域	経過 (9~11月)	現況(11月下旬~ 12月上旬)	見通し (12~2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果(太平洋) 9月 津軽暖流域の各層水温は、0、50、100m層で平年並、津軽暖流の東方への張り出しも東経143度07分付近と平年並でした。 定地水温(平年差) 9月: やや低い~平年並 10月: やや低い~平年並 11月: やや低い~平年並	定線観測結果(太平洋) 12月 津軽暖流域の各層水温は、0m層で高く、50、100m層がやや高く、津軽暖流の東方への張り出しは東経143度39分付近とやや強勢でした。 定地水温(平年差) 11月下旬: やや低い~平年並 12月上旬: 平年並	津軽暖流域の水温はやや高い状態で推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並かやや強勢で推移する。	12月定線観測結果(太平洋・日本海) 各層水温は太平洋・日本海と共にやや高い~高い、津軽暖流の張り出しはやや強勢、対馬暖流の勢力は平年並であった。 定地水温(平年差) 9月よりやや低い~平年並で推移し、12月上旬には平年並となっている。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	9月 表面: 距岸10海里以西では、県北部でやや低めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県北部10~20海里、県中南部50海里でやや低め、県北部30~50海里でやや高めのほかは平年並。 100m深: 距岸10海里以西では、県北部でやや高めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県中北部30海里でやや低め、県中南部50海里で低め、県北部10~50海里から県中北部40~50海里、県中南部20海里および30海里から県南部30~40海里でやや高めのほかは平年並。 10月 表面: 距岸10海里以西では、県中北部でやや高めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県中北部10海里以東と県中南部30海里でやや高めのほかは平年並。 100m深: 距岸10海里以西では、県北部でやや高め、県中北部・中南部でやや低めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県北部10~50海里と県中北部30~50海里でやや高め~高め、県中南部および県南部の10~50海里でやや低め~低めのほかは平年並。 11月 表面: 距岸10海里以西では、県中南部および県南部でやや低めのほかは平年並、10海里以東では、県北部30~50海里、県中北部50海里、県中南部および県南部の10~50海里でやや低めのほかは平年並。 100m深: 距岸10海里以西では、県中北部・南部でやや低めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県北部20海里、県中北部・南部50海里でやや高め、県中北部20海里、県中南部30海里、県南部30~40海里でやや低め~低め、県中南部20海里で極めて低めのほかは平年並。	表面: 距岸10海里以西では、全域で平年並、距岸10海里以東では、ほぼ全域でやや低め、県南部30海里で低め。 100m深: 距岸10海里以西では、県中北部・南部でやや低め~低めのほかは平年並、距岸10海里以東では、県中北部・南部20海里、県南部30~40海里で低めのほかは、ほぼ全域でやや低め。	表面: 距岸10海里以西では、全域で平年並~やや低めに経過、距岸10海里以東では、県北部~県中南部でやや低め、県南部で平年並~やや低めに経過。 100m深: 距岸10海里以西では、県中北部でやや低めのほかは平年並に経過、距岸10海里以東では、県北部で平年並、県中北部・南部で平年並~やや低め、県南部でやや低めに経過。	現況で沿岸に分布している暖水は徐々に縮小していき、親潮第1分枝の張り出しは平年並からやや南偏で推移すると予測される。 100m深については、統計的予測モデルによる予測をおこなった。	県中・南部に敷設されている定置網において、冷水性のサケおよび暖水性のクロマグロ、イナダ等の好漁が11月後半から続いている。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	9月には、表面水温は21~27台で、概ね平年並みであった。100m深水温については、雄勝沖合(38°30'N)142°30'E以東の海域で5~6台で平年より2~5低めであったが、これ以外の海域では9~14台で概ね平年並みであった。 10月上旬には、表面水温は19~23台で、概ね平年並みであった。100m深水温については、7~14台であった。雄勝沖合142°30'E以東の海域で、平年より1~3低めであったが、これ以外の海域では概ね平年並みであった。 10月下旬には、表面水温は16~23台であった。気仙沼沖合(38°50'N)で概ね平年並みであったが、雄勝沖合から亘理沖合(38°N)にかけて平年より高めであった。100m深水温については7~16台であった。気仙沼沖合142°30'E付近で平年より低めであったが、亘理沖合142°E以東の海域で平年より高めであった。	11月中旬~下旬には、表面水温は14~19台であった。亘理沖合の141°E付近と143°E付近で平年より高めであったが、そのほかの海域では概ね平年並みであった。 100m深水温については、4~15台であった。雄勝沖合の142°30'~142°50'E付近に平年より6~7低めの冷水域がみられた。 また雄勝沖合の一部海域では、200m深付近に冷水(3台)の分布が認められた。	100m深水温について、気仙沼沖合の142°30'E以東の海域では、1月に平年より低めだが、2月には平年並みで推移する。 亘理沖合の143°E付近の海域では、1月に平年よりやや高めだが、2月には平年並みで推移する。 このほかの海域では、1月に平年並み、2月には平年並みからやや高めで推移する。	「宮城県沿岸海域の海況予測モデル」を用いて、100m深水温による予測を実施した。(2008年12月について、類似年は1997年、2006年であった)	・2008年のサワラの本県水揚量については、近年の資源量増加傾向を背景に、前年(約540t)には及ばないものの、11月までに約340tが水揚げされている。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	9月上旬、それまで継続していた北からの親潮由来とみられる低温、低塩分な水塊の波及勢力が増し、50海里沖付近まで深層の低温が広がったが、9月末頃には本県南部海域沖を中心に沖合からの暖水波及が強まった。10月以降も黒潮系暖水の影響が卓越し、11月上旬まで50海里以内の100m深における水温平均値は平年よりやや高めであった。11月中旬以降本県北部海域沖40~50海里付近に北から親潮系冷水の南下傾向がみられた。	11月下旬以降本県海域沖40~50海里を中心に北からの親潮系冷水の波及がみられた。本県沖30海里より沿岸では南から波及した黒潮系暖水が分布した。50海里以内の100m深における水温平均値は平年よりやや低めであった。	現状の親潮系冷水の波及が継続し、水温は低め基調で推移すると見込まれる。	12月における海況の類似年として1983年に次いで1980年、さらに1991年、2003年が該当、どの年もその翌月に降、翌年は冷水年となった。	・船びき網によるシラスの水揚量が過去5年平均比2.4倍で5年中最高となった。 ・10月以降の曳き釣りによるメジの水揚量は、昨年比5.6%で不漁。

<p>常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)</p>	<p>9月:前月同様に表層付近に著しい水温躍層が形成された。水温は前月と同じ傾向を示し、海面付丘が高め基調、水深10m～30m以深では低め基調であった。黒潮流路は犬吠崎沖から離岸したため、南部沖合域も低め基調であった。</p> <p>表面水温:23 ～28 北部海域「平年並み」～「高い」 南部海域「やや低い」～「やや高い」 100m深水温:10 ～14 北部海域「やや低い」～「平年並み」 南部海域「平年並み」～「極めて低い」</p> <p>10月:海面付近は気温の低下により前月比べて降温した。一方で水深30m以深では本県中台にある暖水塊からの暖水が波及したため、前月に比べて大幅に昇温した。これらのことから強い水温躍層は解消した。黒潮流路は犬吠崎沖から離岸して、南部沖合域は前月同様低め基調であった。黒潮流路は10月中旬頃再び接岸傾向となった。</p> <p>表面水温:20 ～24 北部海域「平年並み」～「やや高い」 南部海域「低い」～「やや高い」 100m深水温:11 ～15 北部海域「やや低い」～「やや高い」 南部海域「極めて低い」～「平年並み」</p> <p>11月:本県沖合の暖水塊は北上暖水に変化した。北東からの暖水波及が持続した。そのため、本県海域は平年並みから高め基調であった。</p> <p>表面水温:18 ～25 北部海域「平年並み」～「高い」 南部海域「平年並み」～「高い」 100m深水温:12 ～19 北部海域「低い」～「やや高い」 南部海域「やや低い」～「平年並み」</p>	<p>11月上旬～12月上旬:11月から12月にかけて北方から親潮系冷水が波及した。そのため、本県海域は低め基調となった。</p> <p>(12月の海洋観測結果) 表面水温:13 ～21 北部海域「極めて低い」～「平年並み」 南部海域「低い」～「やや高い」 100m深水温:9 ～20 北部海域「極めて低い」～「平年並み」 南部海域「低い」～「平年並み」</p>	<p>概ね「低め基調」で推移する。(ただし、黒潮系暖水の波及時には、「高め基調」へ変化する。)</p>	<p>統計的な予測によると今後1ヶ月程度は海域全体が低めで推移すると予測された。</p> <p>・12月上旬現在、本県の北部に位置する東北沿岸域には親潮系冷水が広く分布している。本県沿岸域は南下流がみられることから、今後も冷水が本県海域に波及すると予測される。</p> <p>・本県沖合域には暖水塊のような暖水を波及させる構造がみられない。</p> <p>・冬季には暖水舌がある程度の持続期間を持って形成されることが多い()。</p> <p>久保治良・友定彰 鹿島灘の海況 - 暖水舌について、茨城水試研報24,1～13,1982</p>	<p>・本県所属まき網漁船によるサバの漁獲量は7月に38,865トン、8月に27,889トンと平成年代における同時期の比較としては最高水準であった。</p> <p>・11月以降に、本県那珂湊漁協所属の底曳き網漁船(那珂湊周辺の沿岸域50m以浅で操業)によりアカヤガラ(<i>Fistularia commersonii</i>)が何度か漁獲された。地元漁業者によればこの海域でアカヤガラが漁獲されるのは珍しいことであるとのこと。</p> <p>・本県のシラス船曳網漁業は春シラス漁(4月～8月)と秋シラス漁(8月～12月)に漁期が分かれる。そのうち今年の秋シラス漁によるカタクチシラスの漁獲量は3,310トン(10月28日現在)で、平成7年の4,098トン以降で最も高水準であった(過去5年間の秋シラス漁の平均漁獲量は1,213トン)。</p>
---	---	---	---	--	--

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ～	+4.0 ～	+6.0 ～	+2.4 ～	+4.0 ～	+4.0 ～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い(20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並(40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い(20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い(7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ～	-4.0 ～	-6.0 ～	-2.4 ～	-4.0 ～	-4.0 ～